



証券コード：7963

# 2026年12月期 中間期決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」  
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

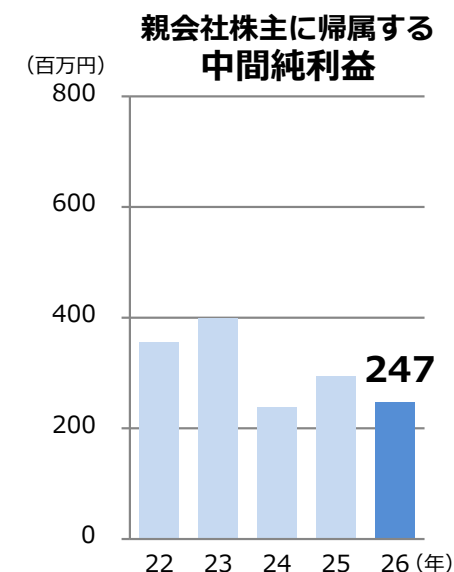
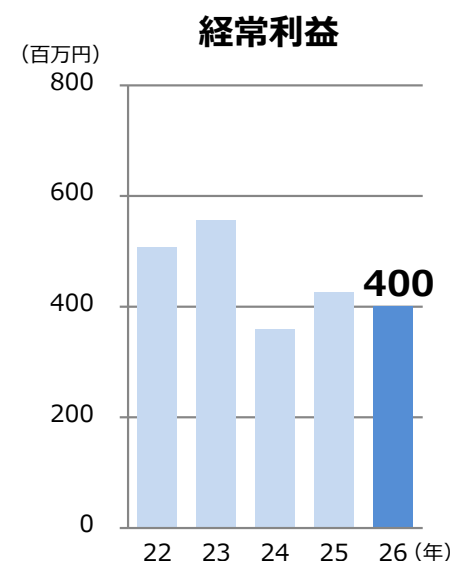
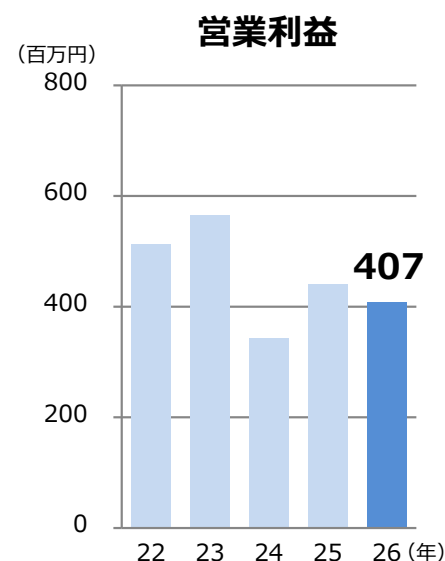
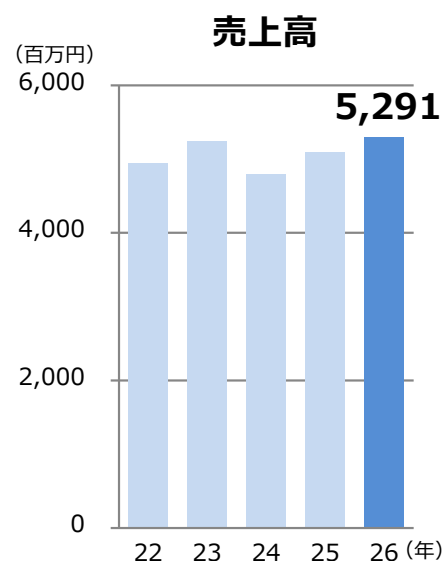
# 連結損益の状況（中間期）

○マスク関連事業の売上が順調に推移し、環境関連事業の減収をカバーしたことから、全事業を合わせた売上高は期初計画を上回りました。

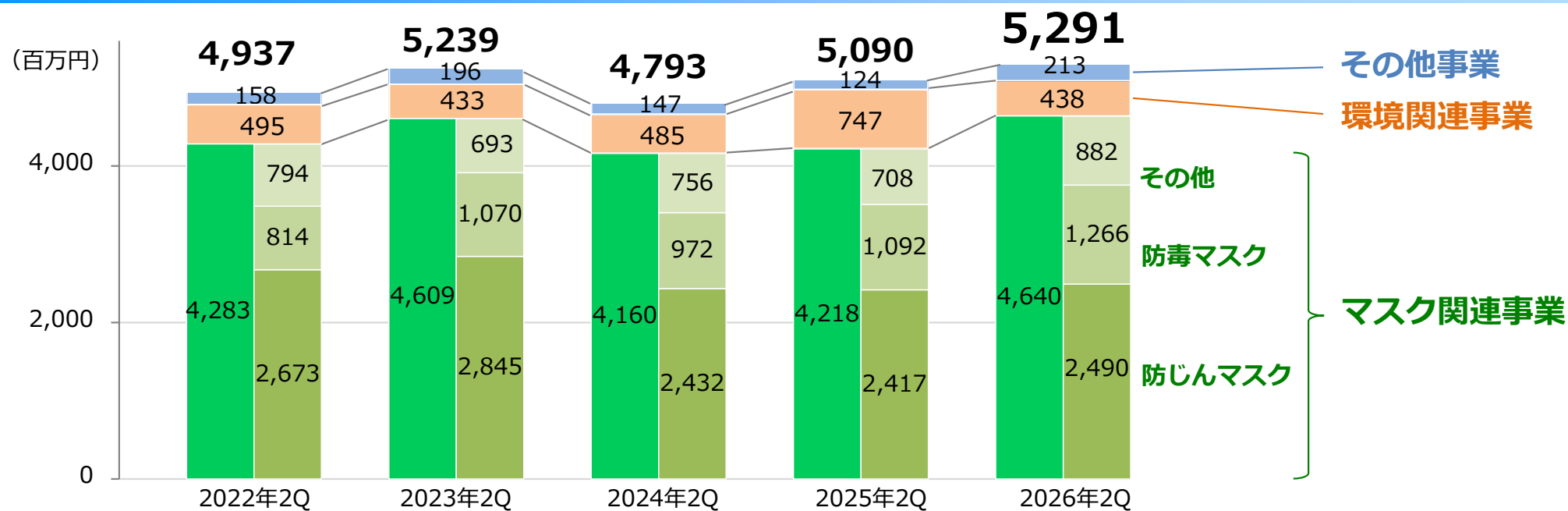
○利益につきましては、原材料価格や物流コストの高騰が続く中、原価率の上昇を一定程度見込んでおりましたが、稼働率の改善等によりその上昇が抑えられ、それぞれ期初計画を上回りました。

（単位：百万円）

|                 | 2025年12月期中間期 |        | 2026年12月期中間期  |               | 前年同期比 |        |
|-----------------|--------------|--------|---------------|---------------|-------|--------|
|                 | 実績           | 売上高比   | 実績            | 売上高比          | 増減額   | 増減率    |
| 売上高             | 5,090        | 100.0% | <b>5,291</b>  | <b>100.0%</b> | +200  | +3.9%  |
| 売上原価            | 2,675        | 52.6%  | <b>2,845</b>  | <b>53.8%</b>  | +169  | +6.4%  |
| 売上総利益           | 2,415        | 47.4%  | <b>2,446</b>  | <b>46.2%</b>  | +31   | +1.3%  |
| 販売費・一般管理費       | 1,973        | 38.8%  | <b>2,038</b>  | <b>38.5%</b>  | +64   | +3.3%  |
| 営業利益            | 441          | 8.7%   | <b>407</b>    | <b>7.7%</b>   | △33   | △7.7%  |
| 経常利益            | 425          | 8.4%   | <b>400</b>    | <b>7.6%</b>   | △25   | △5.9%  |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 293          | 5.8%   | <b>247</b>    | <b>4.7%</b>   | △46   | △15.8% |
| 1株当たり中間純利益      | 59円61銭       | —      | <b>50円92銭</b> | —             | —     | —      |



# 連結セグメント別の業績（中間期）



## マスク 関連 事業

- 産業用マスクについては、ベース売上の増加に加え、価格改定に伴う前倒し受注が一部発生しました。また、中東情勢の緊迫化により、主要顧客である製造業を中心に受注への影響が懸念されましたが、当中間期においての影響は限定的でした。
- 医療用マスクは、コロナ特需の収束後、この一年間は新たな大きな需要の波はなく、売上は下降基調で推移しております。
- 官公庁向けマスクは、計画通り堅調に推移しており、通期においても前期の売上を上回る見込みです。
- 当事業全体の売上高は46億40百万円（前年同期比10.0%増）となりました。

## 環境 関連 事業

- オープンクリーンシステム「KOACH」につきましては、中・小型機種の販売は引き続き順調に推移しておりますが、大型機種の納入が前期には及びませんでした。
- 2026年6月には電子機器トータルソリューション展内の「JPCA Show 2026」へ初出展し、新たな顧客層の開拓に注力したことなどが奏功し、現在、物件情報や相談案件は、過去最高の売上を計上した前期を上回る水準で推移し、着実に積み上がっております。
- 海外半導体市場に向けた販売網の整備を進めており、海外販売店が出展する展示会への積極的な出展協力を通じて「KOACH」の認知度向上と販路拡大に取り組んでおります。
- 当事業の売上は4億38百万円（前年同期比41.4%減）となりました。

# 連結財務の状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

|         | 2025年<br>12月期 |        | 2026年<br>12月期 | 対前期末<br>差異 | 主な増減要因                                                                             |
|---------|---------------|--------|---------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
|         | 中間期末          | 通期末    | 中間期末          |            |                                                                                    |
| 資産の部    |               |        |               |            |                                                                                    |
| 流動資産    | 10,037        | 11,529 | 10,723        | △806       | 現金及び預金 :+155、電子記録債権 :+283、<br>売掛金 : △2,026、商品及び製品 :+123、<br>仕掛品 :+331、原材料及び貯蔵品+314 |
| 固定資産    | 10,788        | 10,913 | 10,659        | △254       | 建設仮勘定 : 149、繰延税金資産 : △164、<br>役員に対する保険積立金 : △271                                   |
| 資産合計    | 20,826        | 22,443 | 21,382        | △1,060     |                                                                                    |
| 負債の部    |               |        |               |            |                                                                                    |
| 流動負債    | 3,600         | 5,204  | 4,064         | △1,140     | 短期借入金 : △700、未払法人税等 : △211、<br>賞与引当金 : △267                                        |
| 固定負債    | 4,109         | 3,441  | 3,550         | +109       | 長期借入金 : +278、<br>役員退職慰労金引当金 : △172                                                 |
| 負債合計    | 7,709         | 8,646  | 7,615         | △1,030     |                                                                                    |
| 純資産の部   |               |        |               |            |                                                                                    |
| 純資産合計   | 13,116        | 13,797 | 13,766        | △30        |                                                                                    |
| 負債純資産合計 | 20,826        | 22,443 | 21,382        | △1,060     |                                                                                    |

# 連結財務の状況（要約キャッシュ・フロー計算書）

（単位：百万円）

|                     | 2025年12月期<br>中間期 | 2026年12月期<br>中間期 | 主な内訳                                                                                                                 |
|---------------------|------------------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 営業活動によるC・F          | 577              | 794              | 税金等調整前中間純利益：400<br>減価償却費：222<br>賞与引当金の増減額（△は減少）：△267<br>売上債権の増減額（△は増加）：1,791<br>棚卸資産の増減額（△は増加）：△759<br>法人税等の支払額：△218 |
| 投資活動によるC・F          | △198             | 54               | 有形固定資産の取得による支出：△201<br>保険積立金の払戻による収入：282                                                                             |
| 財務活動によるC・F          | 107              | △725             | 短期借入金の純増減額（△は減少）：△700<br>長期借入れによる収入：1,200<br>長期借入金の返済による支出：△822<br>配当金の支払額：△250                                      |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | △1               | 31               |                                                                                                                      |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 484              | 155              |                                                                                                                      |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 2,531            | 2,684            |                                                                                                                      |
| 現金及び現金同等物の期末残高      | 3,015            | 2,839            |                                                                                                                      |



## 熱中症対策として負荷の低い呼吸用保護具が求められています

近年の記録的な猛暑を受け、労働現場における安全確保のあり方が見直されています。2025年6月施行の労働安全衛生規則改正により、事業者には熱中症防止のための体制整備が義務付けられました。さらに、2026年3月に厚生労働省が公表した「職場における熱中症防止のためのガイドライン」では、リスク評価にあたり、通気性や透湿性が低い衣服・呼吸用保護具の着用状況や、身体作業負荷の大きさを検討することが示されました。

こうした背景から、暑熱環境下における作業者の負担の少ない呼吸用保護具の選択が、これまで以上に重要になっています。

### ● 安全性と呼吸のしやすさを両立

暑熱環境下においては、作業負荷の少ない呼吸用保護具の選択が推奨されますが、カギとなるのは呼吸時の抵抗です。

従来の防じん・防毒マスクは、顔とマスクとの間に隙間が生じないよう密着させ、フィルターや吸収缶で有害物質をろ過して呼吸する構造となっています。当然フィルターや吸収缶の抵抗もあり、防じんマスクにおいては使用を続けるとともに粉じんが目詰まって抵抗が高くなり息苦しさが増していきます。特に、気温や湿度が高い夏場の作業では、こうした呼吸時の負担が作業者の身体的ストレスや疲労につながる場合があります。

これに対し、電動ファン付き呼吸用保護具は、電動ファンで清浄な空気をマスク内部に送り込むことで、マスク内部を外気より高い陽圧に保ちます。そのため、外部からの有害物質の侵入を抑えながら、呼吸時の抵抗を軽減し、従来のマスクと比べて呼吸しやすい環境を実現できます。また、電動ファンによる送風は、面体内部にこもりやすい熱や湿気を効率的に排出する効果もあります。これにより、過酷な暑熱環境下においても、作業者の安全を守りながら、呼吸時の負担やマスク内部の暑さ・ムレといった身体的ストレスを抑えることにつながります。

安全性と呼吸のしやすさという特長を兼ね備えた電動ファン付き呼吸用保護具は、夏場の過酷な作業現場において必需品となっています。

### ● 現場課題にあわせ様々な製品をラインナップ

当社は、作業環境ごとに異なるリスクや作業者の負担に対応するため、電動ファン付き呼吸用保護具の普及に努めております。

溶接ヒュームが発生する溶接現場などには、防じん用電動ファン付き呼吸用保護具（P-PAPR）を、有害なガスが発生する塗装作業などには、防毒用電動ファン付き呼吸用保護具（G-PAPR）を、さらに、粉じんと有害ガスの両方に対応する必要がある現場には、防毒機能に防じん機能を組み合わせた複合対応型の製品を提供しています。

このように、作業環境に存在するリスク対策はもちろんのこと、作業強度や現場の特性に応じた製品を幅広く提供できることが、当社の強みです。多様な産業現場の課題に合わせて、適切な呼吸用保護具を選択していただくよう製品ラインナップを取り揃えております。



P-PAPR  
「BL-7005」



G-PAPR  
「BL-351HGX」



G-PAPR用吸収缶  
「BRDG-82型 有機ガス・粉じん用」

### ● ホームページで暑熱対策製品をご紹介

ホームページ内の「KOKEN化学物質マスクサイト」に「暑熱対策製品 暑い時期も快適に作業するために」とした特設サイトを加え、快適な作業環境づくりをサポートする暑熱対策製品をご紹介しています。



当社は、気候変動や法規制の強化といった社会的な要請を捉えた技術開発を継続し、現場の課題解決に役立つ高付加価値製品の提供を今後も継続してまいります。

## 「KOACH」の認知拡大・普及活動の一環として、展示会へ積極的に出展しています

オープンクリーンシステム「KOACH」の認知拡大・普及活動の一環として、当社は展示会への出展を積極的に進め、実機を用いた実演や体験を通じて、「KOACH」の特長を発信しております。

### ● 電子機器トータルソリューション展 JPCA Show2026

エレクトロニクス産業全体を網羅する総合展示会「電子機器トータルソリューション展2026」の中核をなす「JPCA Show 2026」に出展しました。

これまで当社は半導体に特化した展示会を中心に出品してまいりましたが、電子回路、実装、電子部品の総合展示会への出展は今回が初めてとなりました。

半導体後工程・実装工程および電子回路業界は、これまで前工程ほど高い清浄度を必要としない分野とされてきました。しかし近年、これらの分野においてもクリーン環境へのニーズが急速に高まっており、「KOACH」の需要も高まることを見込んでおります。

当社ブースでは、中・小型機種に加え、大型機種「フロアーコーチ」の実機を展示しクリーンルーム環境を再現しました。

実際の消費電力をリアルタイムで計測した結果をモニターに表示し、一般のクリーンルームと比べて格段に低い消費電力であることを訴求しました。また、パーティクルカウンターによる清浄度測定や発煙管による気流の可視化により、混雑した会場内でも世界最高レベルの清浄度ISOクラス1のクリーン環境が形成される様子をご覧いただきました。

今回は初出展のため、来場者はこれまで接点のなかった顧客層が中心でしたが、想定を大きく上回る反響をいただき、今後の受注、制約が十分期待できる機会となりました。



展示会場ではクリーンルーム環境を再現し、ISOクラス1を形成

### ● 九州半導体産業展(2026年9月30日～10月1日/マリンメッセ福岡)

九州で開催される半導体産業に特化した専門展「九州半導体産業展」へ昨年に続いて出展いたします。

今年は前回は上回る450社が出展を予定しており、来場者も14,000名と増加することが見込まれております。

前回は台湾や中国からの来場者や大手半導体メーカー関係者の来場も多くみられました。

海外も含め半導体産業を牽引する同地域において、今後も継続的に認知度拡大に努めてまいります。



埼玉県のショールームとオンラインで繋いだライブ中継(2025年「九州半導体産業展」)

### ● SEMICON Japan 2026(2026年12月9日～11日/東京ビッグサイト)

半導体産業における製造技術、装置、材料をはじめ、車やIoT機器などのSMART アプリケーションまでをカバーする半導体エレクトロニクスサプライチェーンの国内最大級の半導体展示会です。

毎年、国内外を問わず多数の半導体関連企業が出展・来場されており、昨年の出展社数は1,200社、来場者は121,267名でした。

本年も引き続き出展し、来場者の皆様との対話を通じて、半導体製造現場におけるニーズを把握するとともに、半導体業界に「KOACH」の名称と存在を訴求してまいります。



実機を使ったプレゼンテーション(「SEMICON Japan 2025」)

当社はこれからも展示会への出展を通じた情報発信を継続するとともに、来場者の皆様との対話から現場の要望・要求事項を収集し、現場のニーズに即した提案や製品・サービスの改善につなげてまいります。

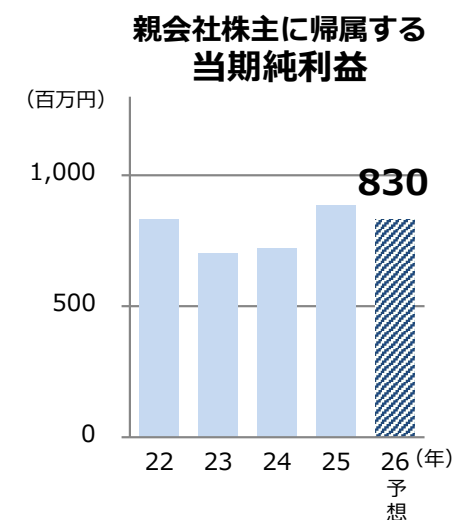
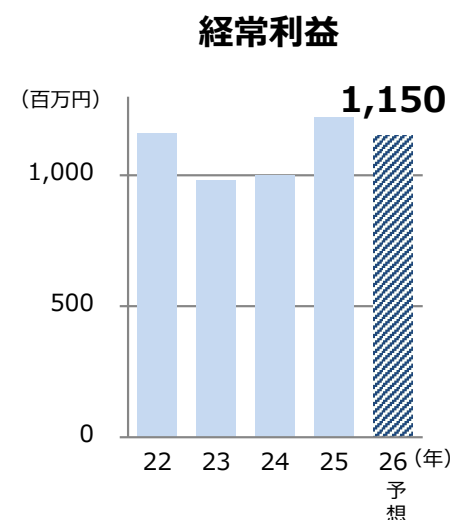
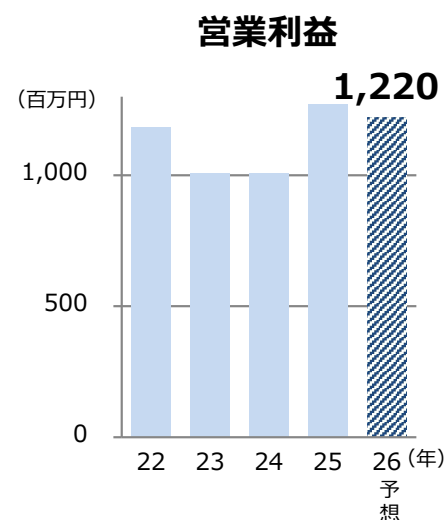
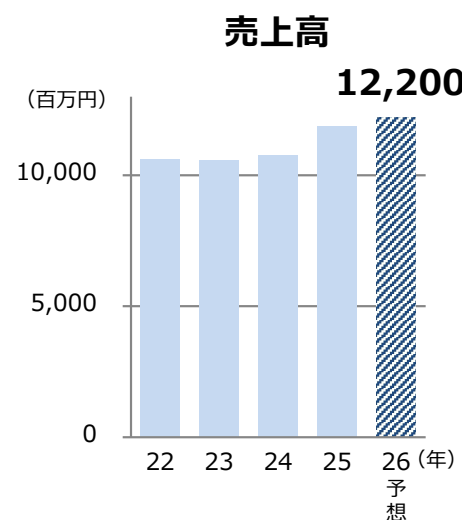
# 2026年12月期連結業績予想・配当予想

当中間期連結累計期間における連結業績は上記の通りであり、2026年2月10日付で発表いたしました連結業績予想に変更はございません。

今後の動向により当業績予想数値に対して修正が必要になった場合は、速やかに開示いたします。

(単位：百万円)

|                 | 2023年12月期<br>実績 | 2024年12月期<br>実績 | 2025年12月期<br>連結実績 | 2026年12月期<br>連結予想 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 売上高             | 10,587          | 10,762          | 11,857            | <b>12,200</b>     |
| 営業利益            | 1,007           | 1,009           | 1,271             | <b>1,220</b>      |
| 経常利益            | 979             | 1,002           | 1,220             | <b>1,150</b>      |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 701             | 722             | 885               | <b>830</b>        |
| 1株当たり当期純利益      | 141円89銭         | 146円05銭         | 179円82銭           | <b>168円79銭</b>    |
| 1株当たり期末配当       | 35円00銭          | 35円00銭          | 50円00銭            | <b>35円00銭</b>     |





本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2026年12月期第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2026年8月5日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

また、本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、事由の如何を問わず当社は一切責任を負いませんので、ご了承ください。

## 本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社  
広報・I R 室

|        |                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|
| TEL    | 03-5276-1932（直通）                                                        |
| FAX    | 03-5276-6530                                                            |
| E-メール  | <a href="mailto:ir@koken-ltd.co.jp">ir@koken-ltd.co.jp</a>              |
| ホームページ | <a href="https://www.koken-ltd.co.jp/">https://www.koken-ltd.co.jp/</a> |